

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

畑作・園芸編も
HPで公開中!

1 現在の生育について

8月1日現在の生育は、「ななつぼし」では平年より茎数がやや少なくなっており、「風の子もち」は生育が5日ほどすすんでいます(表1)。また、冷害危険期は極端な低温が無く経過しており、不稔の発生は平年並みと予想されます。今後は、病害虫防除と登熟期間の水管理を適切に行い、収量の確保と品質の向上を目指しましょう。

表1 8月1日現在の生育 (留萌普及センター本所管内平均値)

		草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/m ²)	出穂期
ななつぼし (成苗)	令和2年	83.7	11.0	466	7月27日
	平年	85.1	10.8	500	7月26日
ゆめぴりか (成苗)	令和2年	81.0	11.3	564	7月28日
	平年	83.3	11.5	521	7月27日
風の子もち (中苗)	令和2年	76.0	10.3	544	7月29日
	平年	74.8	10.5	551	8月3日

2 病害虫の防除について

(1) いもち病

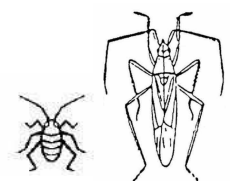
いもち病の防除は、出穂期とその1週間後の2回が基幹防除となっています。近年の発生は少ないですが、BLASTAM (いもち病の発生予測) 情報も参考にし、見歩き調査を行いましょう。

BLASTAM情報
のQRコード

主に、過去に発生した事がある水田、風当たりが少ない場所や沢の付近について調査して、発生が見られた場合は直ちに防除を行いましょう。

(2) アカヒゲホソミドリカスミカメ

北海道防除所の情報(8月予報)では、カメムシの発生量は「やや多い」となっています。基幹防除はいもち病と同時となりますが、発生予察情報やすくい取り調査結果を参考にし、追加防除を検討しましょう。



幼虫 成虫

3 登熟を高める水管理について

長期予報では、8月は気温が高めで降水量が少ない予報となっています。秋作業を考えて早期に落水したくなりますが、開花後から穂かがみ期までの稲は多くの水を必要とするため、土壌水分の確保が重要です。順調な登熟のために表2、表3を参考に水管理を行ってください。

特に「ななつぼし」については茎数が少ない傾向があるので、根の切断による登熟不良を起こさないように注意してください。

表2 落水のめやすは？

排水良好田	出穂後 25日程度
排水不良田	出穂後 12日程度

表3 登熟期間の水管理

生育期	基本的な水管理	ポイント
出穂～開花期	極浅水 (ひたひた水)	土壌から多くの水分を吸収するため水を切らさないこと
開花終了後～ 穂かがみ期	間断かんがい	田面に1cm以上のひび割れが生じないように適宜走水を行う
穂かがみ期 以降	落水	田面に靴跡が1cm程度付く程度の土壌水分を確保する(根が切れるので干しすぎない) 用水路の断水前に土壌水分を確認、適宜入水して登熟後期に必要な水分を確保する

表4 出穂期別の成熟期予想(各地区アメダス)

出穂期	7月23日	7月26日	7月29日	8月1日	8月4日
羽幌町	9/8	9/11	9/15	9/18	9/22
初山別村	-	9/13	9/16	9/21	9/24
遠別町	-	9/14	9/18	9/22	9/26

※ 成熟期の予測は出穂期からの積算気温が950°Cに達した日

積算気温は出穂期から7月29日までは実測値、7月31日以降は平年値を積算した

4 苗床のpHは適正ですか？

苗の生育が悪かった、下葉の褐変等の症状があったり、後作の緑肥エン麦が黄化して育たない場合、苗床のpHが低下している可能性があります。pHの矯正には時間がかかるので、自家製の育苗土を使っている場合も含め、早めに土壌診断を実施してpHの調整を行いましょ

～ 好天に急ぐ気持ちにブレーキを！ あせりの陰にひそむ事故 ～